



2022

Environmental Activity Report

環境活動報告書



ごあいさつ

地球のために
私たちが果たすべき責任と役割

処方改良による環境負荷化学物質の削減や原料の枯渇を防ぐための自社栽培等、環境影響の継続的改善と環境汚染の予防に取り組んでいます。

私たちアルプス薬品工業は、医薬品原料の製造において、環境負荷の削減に努め、廃棄物の削減やリサイクル化、省資源・省エネルギーの推進活動も積極的に行っております。

その他、国内外の環境に関わる法規制及び当社が受け入れた要求事項を順守し、地域社会とのコミュニケーションを図るなど、当社の環境方針に従い、EHSリスク改善を全社的に進め、広い視野に立った環境保全活動に努めています。

特に事業において多量の生薬原料を使用するため、原料の資源枯渇の防止、また海外においては現地での雇用を生み出すため、自社栽培(ダイオウ・トウガラシ・センナ)に積極的に取り組んでいます。

また、2030年までを『勝負の10年』として捉え、“ALPS2030”をキックオフし、私たちの事業活動は、環境への影響を少なからず与えていることを正しく理解し、SDGsやカーボンニュートラルの思想に基づき、アルプス薬品工業が果たすべき責任と役割を認識し、環境保全活動を経営課題の一つとして取り組んで参ります。

私たち一人ひとりが、将来に影響を与える当事者であるという意識・知識・見識を持って行動し、脱酸素のみならず、資源循環、分散・自然共生という多角的なアプローチによってグリーン社会の実現を目指していきたいと考えております。

代表取締役社長 牛丸 理

環境方針

1. アルプス薬品工業株式会社は、医薬品メーカーとして最良の技術で最高の製品を生産し、お客様に提供するため、環境影響に十分配慮し、継続的な環境負荷削減に努力いたします。
2. 国内外の環境に関わる法令及び当社が受け入れた要求事項を順守し、事業活動を行います。
3. 環境保護のため、自主的な各種活動を継続して実施します。
4. 事業活動において生産性の向上を行い、廃棄物の発生の低減、リサイクル化、省資源省エネルギーの推進を行い、環境負荷の低減を図ります。
5. 環境リスクアセスメントにて環境リスクを把握し、環境管理の継続的な計画・実施・改善など、環境リスクマネジメントシステムの運用を通じて、環境リスクの低減活動を継続的にを行います。
6. 生物多様性及び生態系の保護のため、自主的に各種活動を継続して実施します。
7. 地域社会との対話を図り、環境情報を適切に開示し、社会とのコミュニケーションを図ります。
8. 環境に関する教育訓練を充実し、自ら環境影響を考え行動する従業員を育成します。
9. 環境方針は、当社の全社員及び協力会社にも周知徹底し、社外へも公開します。

企業理念

Mission ミッション

ALPSの使命・存在意義

医薬品メーカーとしての自覚と誇りを持ち、最良の技術で、お客様にとって最高の製品を提供し、世界に貢献する

Vision ビジョン

ミッションをはたすための組織のあるべき姿

世界に誇れるALPS独自の価値を創造する

Value バリュー

ビジョン実現のため、大切にしている価値観

1. 常に向上を目指し、自律的に行動する
2. 社会の視点・お客様の視点を大切に
3. 現場・現物・現実にもとづき、本質を見極める
4. 失敗や変化を恐れず、チャレンジする
5. 議論とチームワークを大切に
6. コンプライアンス、安全操業を徹底する
7. 従業員の成長を促し、幸福度を高める
8. 会社の成長を通じて、地域社会に貢献する



アルプス薬品工業は、持続可能な社会を実現する為、お取引先も含めた包括的なサプライチェーンでCSR調達を推進します。

安全衛生環境保護推進組織図



アルプス薬品工業の活動

当社では主に、医薬品原料を製造しており、エネルギーや原材料の消費や廃棄物の排出等でさまざまな環境負荷をかけています。そのことを認識し、全社的にリスク改善活動を推進し、環境負荷の削減にも取り組んで事業活動を行っています。



環境活動成果

原料調達において「購買取引基本方針」を制定し、サステナブルな原料調達の実現を目指すとともに、飛騨を始めとする各地で栽培事業に取り組んできました。エネルギーの省エネ活動としては、2022年度より2025年度に向けて原単位比3%削減の目標に向けて具体的な施策を設け全社一丸となって取り組んでおります。

■ダイオウ栽培 (栽培地:北海道)

「ダイオウ」は多くの漢方処方に配合される生薬です。使用部位である根茎及び根には、瀉下効果を有する成分「センノシド」が含まれています。ダイオウの国内消費の殆どが中国からの輸入品であり、産地によって品質にバラツキが大きいのも特徴です。特に当社が必要とするセンノシド含量が高いダイオウは野生品に多く、一方、野生種は長年絶滅が危惧されてきました。そこで、高含量品の安定調達と原産地野生種の枯渇防止を目的とし、2012年より現地パートナー企業と共に北海道での栽培研究に着手、同地の環境に適應する高品質な系統の開発を進めると共に、量産化の検討を並行して来ました。2020年には、当初目標とした数量、品質に到達しています。しかし近年、北海道においても地球温暖化の影響が現れてきており、気温の上昇や渇水、突発的な豪雨に見舞われることもあり、生産量や品質への影響が懸念されています。栽培方法の改良や異常気象への対策を着実にを行い、安定生産に向けたゆめぬ努力を続けます。



■トウガラシ栽培 (栽培地:岐阜県)

トウガラシの辛み成分(カプサイシノイド)は温湿布など、血行の改善によって痛みを緩和する医薬品活性成分(API)として世界中で使用されています。当社は長年、トウガラシを原料として抽出、精製し、100%天然由来の製品『商品名:カプサイシン』を製造販売しており、その世界シェアは第1位を誇っています。従来、原料用トウガラシは海外からの輸入に頼っていましたが、長年の研究で品種改良に成功したことを機に、医薬品原料の安全性確保と地域社会への貢献を目的として、本社が所在する飛騨地域での栽培と量産に取り組んで来ました。栽培エリアも飛騨北部から飛騨南部や更にその南まで広がり、栽培スタイルは、個人での小規模、専業農家の副作物、農業法人の大規模栽培まで、多様化が進みつつあります。また、2022年度は「飛騨産トウガラシ」を使用した純国産製品が初めて海外に出荷された記念すべき年となりました。トウガラシ栽培によりトレーサビリティが確立された安全な医薬品を社会に提供し続けるとともに、高齢者の生きがいサポート、農地荒廃防止、経済作物の提案といった地域活性化にも貢献していきます。



■センナ栽培 (栽培地:海外)

「センナ」は、当社主力製品のひとつである「センノサイド・カルシウム」の原料であり、同製品は緩下剤の医薬品活性成分(API)として世界中で使用されています。また、当社製品は世界シェア第1位を誇っています。センナは現在、原産国からの輸入に頼っていますが、他の農作物との競合によるコストアップ、異常気象による生産量や品質の変動等、リスクが懸念されています。そこでこれらへの対策として、第三国での自社栽培による産地化を検討して来ました。ミャンマーにおいて、中央乾燥地帯の気候がセンナ栽培に適している可能性があり、2017年より現地での試験栽培に着手、栽培事業の可能性調査を開始しました。その後、本調査は、独立行政法人国際協力機構(JICA)の「途上国の課題解決型ビジネス(SDGsビジネス)調査」の案件として採択され、JICAからの受託事業として継続実施しています。わたしたちはセンナ栽培を通じ、医薬品原料の調達安定化を図ると共に、途上国における雇用創出、環境負荷低減を目指しています。



環境活動成果

当社環境方針に基づき、毎年、環境活動目標を定めて取り組んでいます。

分類	2021年度の主な活動成果
省エネルギー、省資源	<ul style="list-style-type: none"> 「購買取引基本方針」を制定し、サステナブル調達を推進 工場CR空調機の更新による省エネ実施 ペーパーレス活動(電子化)による紙削減活動、意識改善による省エネ意識の向上と電気使用量削減活動の実施 製造プロセス・製造品目の見直し、製造工場の集約による製造効率の改善
化学物質管理	<ul style="list-style-type: none"> 作業環境測定の実施 工場排水ピット点検実施と、専門業者によるピット清掃及び内部点検実施
事故緊急時対応	<ul style="list-style-type: none"> 災害、事故を想定した防災訓練、漏洩訓練の実施 自衛消防隊による緊急事態対応訓練(休日・夜間含む)の実施
環境リスクアセスメント	<ul style="list-style-type: none"> 製造工程で発生する臭気の抑制対策の検討及び実施 騒音、臭気の定期測定と監視
廃棄物管理	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物搬出の適正化とリサイクル化の推進
環境コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 工場見学の実施。(1回/年) 上野工場 工場周辺の側溝清掃への参加 市内行事への協賛

省エネルギー



■ エネルギー原単位年度別推移

(単位: 原油換算 L/千円)

近年、製造品目の変化により増加傾向にありましたが、2025年までに原単位3%減(2021年度比)を実現する目標を掲げ、製造プロセスの見直し、ボイラー設備の管理を行い蒸気の使用量の削減を行います。



■ CO2年間排出量

(単位: t)

生産量の増加により近年増加傾向となっています。今年度より温室効果ガス排出削減計画を作成し2025年までに約3%(2021年度比)の削減を目指します。

定期測定

当社では環境基準の順守状況を監視するため定期的に、工場排水、煤煙、騒音の測定を実施しています。

■ 2021年度 各工場 工場排水測定結果

項目	単位	本社工場		上野工場		富山工場	
		規制値	平均値	規制値	平均値	規制値	平均値
pH		5.8~8.6	7.1	5.8~8.6	7.8	6.0~8.0	7.4
BOD	mg/L	25(20)	3.1	25(20)	3.9	20	1
COD	mg/L	160(120)	8.3	160(120)	10.4	160(120)	13.3
SS	mg/L	90(70)	2.2	90(70)	1.5	40	14.7
nヘキサン	mg/L	5	<0.1	5	<0.1	5	<0.5
フェノール類	mg/L	0.5	<0.01	0.5	<0.01	-	-
ジクロロメタン	mg/L	0.2	<0.01	0.2	<0.01	-	-
大腸菌群	菌/mL	-	-	-	-	3000	31
分析頻度		2回/月		2回/月		1回/月	

本社工場、上野工場では月2回、富山工場では月1回排水の水質検査を実施し、適切な工場排水の確保に努めています。各工場ともに測定結果は規制値以下です。

■ ダイオキシン測定結果 (2021年7月13日)

対象	排ガス ng-TEQ/m ³ N	燃え殻 ng-TEQ/g	処理水 pg-TEQ/l	ばいじん ng-TEQ/g
上野廃液焼却炉	規制値 5 実測値 0.0092	3 0.000	10 0.0074	-

■ 上野工場焼却炉水銀濃度測定結果 (前期:2021年7月8日、後期:2021年12月17日)

項目	単位	On	搬出基準	Os	7月8日		12月17日		
					測定結果	適・否	測定結果	適・否	
水銀濃度	On12%換算値	ug/m3	12	50	11.2	0.016	適	0.009	適

上野工場廃液焼却炉のダイオキシン類、水銀の測定結果も規制値以下です。

■ 2021年度 騒音測定結果

敷地境界線付近の騒音測定を定期的に行い、状況確認を実施しています。各工場ともに測定結果は基準値以下です。又、定点騒音測定機による連続測定も実施し常時監視しています。

時間区分	朝(6:00~8:00)	昼(8:00~19:00)	夕(19:00~23:00)	夜間(23:00~6:00)
本社、上野 法規制値	60dB	65dB	60dB	50dB
本社 (敷地境界線①~⑦平均)	45.1	50.5	47.3	44.4
上野 (敷地境界線①~④)平均	52.9	54.2	50.8	48.3
富山 法規制値	65dB	70dB	65dB	63dB
富山 (敷地境界線①~⑥)平均	49.4	51.2	52.9	49.7

苦情・問い合わせについて

2021年度は、苦情・問い合わせはありませんでした。

環境活動のあゆみ

平成 11 年 11 月	上野工場、富山工場 ISO14001 認証取得
平成 13 年 7 月	本社工場 ISO14001 認証取得
平成 16 年 7 月	SGS社による更新審査
平成 19 年 6 月	SGS社による更新審査
平成 22 年 6 月	JACO社による更新審査
平成 25 年 5 月	JACO社による更新審査 (東京営業所、大阪営業所も審査対象へ)
平成 28 年 6 月	JACO社による更新審査
平成 30 年 6 月	JACO社による 2015 年度版移行審査・認証取得
令和 元 年 6 月	JACO社による更新審査
令和 4 年 6 月	JACO社による更新審査